

一般質問

市民の声を代表して 22人が質問

議員は、市長などに対して、市の仕事の状況や将来の方針などを質問することができます。これを「市政に関する一般質問」と呼んでいます。

今回の定例会では、22人の議員が市民の皆さんを代表して一般質問をしました。どのような質問と答弁のやり取りがあったのか、ご紹介していきます。

子育て世代を 呼び寄せよう！

齋藤 久代 議員

問 市が子育て支援世代に発するラブコールにはインパクトがない。他市町村と比べて素晴らしいサービスがあれば、伝わるように打ち出すべき。子育て支援サイトを立ち上げると有効であると思うがどうか。

健康福祉部長 ホームページの見直しにより充実したと思っているが、今後よりよい形に持っていきたい。

問 教育関係の情報も集約するのは可能か。

答 防犯的なものやサイトの作り方もあるので、担当部局と協議していきたい。

教育長 教育委員会関係の情報も一覧性を持っているわけではない。分かるような形で見直したい。

問 宇都宮市で開催されている「宮コン」が注目を浴びている。結婚希望世代も合わせて面倒を見るという意味で、このような支援についてはどうか。

まちづくり振興部長 商工会と相談したい。

問 子育て支援を応援する情報が一括してあると本当に宣伝になると思うが。

答 広範囲にわたるので、部内で情報発信の在り方の観点から協議したい。

正確なマップを！ 放射線濃度

染谷 和博 議員

問 福島第一原発事故を受け、文部科学省は8月30日に放射線セシウム濃度マップを公表した。市としても正確なマップを作成したほうがよいと考えるが。

総務部長 現在、専門の業者に委託し、公園を含めた100カ所を定点的に測定している。その結果は地図上に落とし、数値も合わせて掲示して情報提供をしている。

問 市が所有している放射線測定機器で測定した結果は公表しているのか。

答 公表していない。

問 公表しなければ何のために測っているのか。

答 業者の測定機器は精度が高く、我々の機器とでは誤差が生じてしまう。参考という考えで使っている。

問 民間の団体もそれぞれで買った機器で測定している。それがマップとして出て数値が独り歩きする前に、市としてきちんと正確なマップを発表し、市民を安心させてほしい。

答 我々もできる範囲の中でマップは作成しているという認識でいる。

対策は？ 藤代駅周辺駐輪場

阿部 洋子 議員

問 藤代駅北口の駐輪場で水たまりが多くできる個所の整備を昨年要望したが、どのようなになっているのか。

市長 駐輪場対策には本腰を入れなければならないと考えている。

総務部長 抜本的な整備には段差の解消が必要になるし、水抜き場所がないという問題があるが、多少の水たまりは直営で対応できると思う。計画的に進めたい。

問 藤代駅南口は放置自転車が多く、駐輪場のスペースに余裕がなくなってきたが、対策は。

答 取手駅のように自転車放置整理区域の指定を検討したいが、そうすると有料化するか、または別に駐輪場を設けなければならぬ可能性はある。今のところは利用者のマナーを信じ、シルバー（人材センター）の方たちと駐輪場整理をしていきたい。

問 対策の期限はいつぐらいを考えているか。

答 仮に自転車放置整理区域指定となると、周知期間や調整が必要になるのでまだまだ時間はかかる。

戦争の悲惨さを 後世に

貫井 徹 議員

問 天災の発生は防げないが、戦争という人災は絶対に繰り返してはならない。私が20年前議会提案した取手市民による戦争体験記に『赤い炎と青い草』を寄稿した故福井直一元新聞記者は「空襲を受けなかった都市での戦争体験記は少なく非常に意義がある」と評価した。私が11年前議会で提案した第二集・戦争体験記にも、上杉俊直元陸軍少尉等多くの市民が戦火の体験を寄稿した。戦争体験を語る人が高齢となり時間との戦いだ。約7割の市民が転入者で、全国各地の戦争体験が語れると確信する。

不戦の誓いも新たに、取手市主導の第三集・戦争体験記発刊を提案する。

また、取手郷土ゆかりの人々の作品を含めた戦争と平和展の開催を提案する。

総務部長 先輩職員が戦争体験記を第一集、第二集と発刊している。平和事業の中で、第三集を目指して取り組んでいきたい。

教育委員長 戦争と平和展は、市長部局と連携しながら検討したい。

※質問部分は、議員本人が編集しました。